

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396300010		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム設楽名倉の家(1号館)		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町東納庫字古松4番地		
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果市町村受理日	平成31年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2396300010-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年11月1日開設。2ユニット、定員18名。山間部に位置し、標高が高く四季折々の山や田園風景の綺麗な空気の良い所です。近くには桜の名所や紅葉の名所があり、毎年ドライブに出掛けています。ご近所の方が野菜を持って来て下さったり、利用者様のご家族が作った新鮮な野菜を届けて下さったりと、季節を感じられる食事も楽しみの一つでもあります。また、ボランティアの方達の訪問もあり踊りや歌、大正琴などの楽しみもあります。職員は地元の方が多く、年齢も30代~70代と幅広く、家庭的な雰囲気の中、それぞれが工夫や協力しながら仕事に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間地域で職員確保が難しく、必然的に子育てを終えたパートタイマー職が頼りとなる存在として活躍している事業所です。「買い物でいいもの見つけたよ」とプライベートも利用者のことがいつも頭にあり、リビングには家庭にある何気ない振舞いが心地よく広がっています。時節料理が欠かさず提供され、「何食べたい?」「へぼご飯」となれば蜂の巣を求め、食べることに幸せを感じる時間が優しく過ぎてゆきます。誕生日に本人が好きなおはぎを手作りで届けたお嫁さんの日頃の苦勞をねぎらい、事業所がボードで皆に紹介したところ、涙ぐまれて「(気持ちを)わかってもらえて…」との言葉が零れたエピソードからも事業所の姿勢が滲みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示するとともに、常に実践に繋げている。朝礼でも確認している。	法人並びに事業所理念は目に入る場所に掲げ、職員が意識できるよう配されています。元々「地域が求めるならやろう」がモットーの管理者ですが、地域住民も迷惑だったという相当な困難事例を受入れるか否か迷ったとき、法人理念が後押しとなったという例もあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や外出時に近隣の方との会話や、地域の方によるボランティア(歌、踊り、大正琴、草刈り)の支援協力など交流を図っている。施設側の理容店の方が定期的に散髪に来てくださり、その際に地元情報を得たり、会話を楽しむ様子がある。	「勝手に採っていいよ」と気軽に声をかけてくださる近隣農家もいて、野菜のおすそ分けは豊富です。定期訪問となる理髪店は地域のことを知り尽くす一方で、事業所の病院受診の難儀さを受けとめ「手伝ってやるよ」と手を貸して下さったり、花壇ボランティアも訪れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方の入所が増え、面会を通して施設や認知症の方への理解が深まっている。地域柄一人暮らしの方も多く、将来的に心配となった時に施設の存在は有り難いとお言葉を頂く事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に行っている。施設での取り組みの様子、利用者様の方の報告や課題について意見を頂きサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は家族、地域、行政が顔を揃えています。「(職員一人ひとりの負担が大きいことを心配して)シルバーで探すかあ」「何とかなくてはね」と、民生委員や家族から支援的な発言が挙がり、メンバー7名が固定されていることもあって、ファミリー的な雰囲気も滲む議事録です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席や、町主催の研修会の案内を頂いたり、常に協働体制に取り組んでいる。先日の台風での停電では、担当者が施設迄出向いて下さり、今回の問題点について検討の約束を頂いた。	大停電では、「水いるかあ〜」と声がかかり、「大丈夫?」とご飯を炊いて持ち込んでもらえたりもしましたが、町からも職員が駆けつけてくださっています。常日頃の関わりと同じく、「今回のことを糧に今後は町でも諸所備えるので…」と共に苦労を分け合う言葉が届いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の年間教育研修の中でも身体拘束について研修している。身体拘束について職員は理解と認識はしているが、利用者様が非常に不穏で外へ出ようとされる時は、安全の為に玄関の施錠をする事もある。	法改正に伴い『身体的拘束適正化検討委員会』を設置し、既に2回の会議運営を終えています。本件は年間研修にも位置付け、つい出てしまいがちなスピーチロックは管理者が都度注意して、認知症と認知症ケアについて省みる機会としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の年間教育研修の中でも虐待防止について研修している。自己チェックシートの活用や、職員同士でも注意できる職場環境に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内教育の実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明を心掛けている。不安や疑問点を尋ね、納得頂けるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や、面会でのご家族との会話のなかで意見要望を聞き運営に反映したり、上に報告している。利用者様とは日常生活にてくみ取り要望に答えるよう努めている。	便りや通信は定型版ではないものの、請求書発送の際に1ヶ月の様子を手書きでしたためています。後見人がついてる人、キーパーソンが遠方に住む人など事情はまちまちのため、ホットラインは電話が主となっています。	職員の携帯番号を知ったことで、家族からLINEが気軽に入っている現状があります。報連相のスムーズさ、個人情報保護等々網羅しますと、法人で携帯を備えてもらえることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや、リーダーより職員の意見をまとめ上がってきた物は、検討し可能な限り運営に反映している。	法人から職員会議は必要に応じてよいとアナウンスがあつてから、事業所でも柔軟運用となつてはいますが、「散歩を個別に」したり、「体操を増やそう」ということになったり、また休憩のとり方も職員意見に基づいて決定され、「お鍋やろう」「紅葉狩りいこう」も日々実現しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の労働環境や希望を配慮した勤務形態をとっている。パートやアルバイトにも資格手当や達成手当など付くようになり、給与水準も上がってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力、必要に応じて本部・事業所内・外部への研修・教育に参加している。資格取得でのサポートもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の市町村や、町内での研修・勉強会に参加し情報交換している。参加者は管理者だけでなく、職員が勤務に支障がない程度で交代で参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時、契約時にご家族との会話からや、本人のフェースシートやアセスメントシートの情報により、生い立ち、生活歴、趣味などを知る事により安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで他では話せなかった困っている事、不安など、ご家族の思いを傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応はまず今の状態からすぐ必要なサービスの導入をし、早い段階でサービスの見直しをしたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの利用者様の得意とする事、できる事などを見つけ一緒にやっている。それぞれの役割が決まっている事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の様子や変化をお話している。今まで疎遠であったご家族が入所をきっかけに交流が始まり、集まったり外出できるまでとなったご家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や歯医者など馴染みの所へ、ご家族様の協力のもと出掛けて行く方もいて、入所依頼継続している。近隣の方が面会に来所時は、顔見知りのかた数名の面会をされていかれる事もある。	買い物や外食に連れだしてくださる家族もいて、事業所でも五平餅やへぼご飯(蜂の子)といった郷土料理で利用者をもてなすことが日常的です。また山間地域とあって皆幼馴染のような関係で、実際夫妻や兄妹の入所もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の配置や日々の生活の中で、気の合う人同志や同じ趣味の方など、利用者様が関わり合いながら支え合えるようにしている。様子を見て席替えもしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。ご夫婦のみで生活されていた方で、奥様が他施設に移動され一人暮らしを続けているご主人へ、お二人の様子を尋ねる電話を定期的に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や本人との会話の中で、職員がニーズをくみ取り、カンファレンス等で検討し、可能な限り努めている。	18時～20時の遅番が1名となる時間帯、または眠れない夜中の場面において想いがこぼれることが多くあります。「えっ」と驚くような話を聞いたことで、席替えに至ったという変化も生じていて、耳を傾けることの重要性を職員は認識しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族よりお聞きした話や、利用者様本人との会話の中から、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムを大切にしている。かなりの高齢の方から若い方まで、年齢に幅があるので、無理強いする事のないよう気を付けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングや、変化や入院、介護事故などが起きた時には、その都度介護サービスに反映し、介護計画の見直しをしている。	これまで『観察記録』的で「かゆがっていた」「じゃあ×ね」だったことが、「かゆみがでないようクリームを塗った(が、かゆみが残る)」「取組んだから〇ね」と、『介護記録』へと変容していくとともに、モニタリングを通した介護の視点が総体として向上しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護詳細記録への記入や、送りノートへの記入など情報の共有をしている。体調の変化、薬の変更追加時なども、詳細記録に記入し様子観察している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないよう、柔軟に対応している。ご家族様が遠方であったり、ご家族のいない方もいる。その時々ニーズに柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアの方の受入れや、この地域独特の食べ物(五平餅)を時には購入し食べる事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、入所時にご家族様と話し合い決めている。施設に往診に来て下さる施設医もいるが、入所前の主治医のままの方もいる。	従来のかかりつけ医を継続しているのは4名で、2つの協力医と他1ヶ所に変更した人が14名います。協力医の訪問診療では前日に医師へFAXで情報を入れ、当日は遅番が立ち合い、『往診関係』『介護詳細』に記録を残して共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に看護師が来所する。職員は気になる点を報告相談等している。その後、受診や治療へと繋がる事がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の関係者とは常に良好な関係が保てている。早期退院に向けて、密に連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にも説明させて頂いている。その時の状況により医師の指導や、ご家族の意向のもと、地域の他施設とも連携している。また、グループの中での協力体制ができています。	医療と連携できないことから看取りには取組んでいません。家族には入居契約と同時に近くの特養老人ホームへの申込みも併せておこなってもらい、介護度3になったときに一度話し合うこととなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが救急救命訓練の実施や、マニュアルも掲示してある。日々の介護の経験の中から、職員同士で指導伝達し、実践力も身につけてきた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練(通報・避難・消火等)にて身には付いてきている。地域との合同訓練は出来ていない。地区の区長とは協力体制のお願いはできている。	年2回の防災訓練実施とともに、自治会長など地域の皆さんに参加を都度お願いしていません。大停電では「水いるかぁ～」と声が入り、電気の通る地域からご飯が届いたり、地域が事業所を応援する気持ちを知るに至っています。	地域参加は声をかけてもなかなか進まないようですので、誘うメンバーを拡げていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修などにて心掛けてはいるが、時に気になる事もあり、職員間で注意できる職場となるよう努力している。トイレのドアや入浴時のカーテンなど注意している。	地域からの利用者ばかりで「皆知り合い」のため、近すぎでの仲たがいがいも時にはあり、顔を合せの機会を減らし職員が上手に回避しています。また「皆で決めてでしょ」と言えるよう、全員が集うときにマナーやエチケットを確認し、居室番号で会話をもつことも浸透しています。	年配の職員は慈悲深い母親的な対応ですが、年齢が若くなるとややお嫁さんの気なものは少し気になります。家族的ないい雰囲気事業所だけに、親しみが度を越えないよう何らかの仕組みをつくれたら、なお良いと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中での読み取りや、ご家族様との会話の中で話した事をお聞きしたりする事もある。自己決定には心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まりはあるが、本人の意思を尊重している。ご自分のタイミングで生活されている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で季節に合った服装のお手伝いをしている。外出や病院受診の時などは、職員が服装を決める時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査にて全員が食事が楽しみであるとアンケート結果が出ている。田舎ならではの季節感のある食事の提供や、季節の行事や誕生会など嗜好を凝らしている。お手伝いもできる方にはお願いしている。	「何食べたい？」と職員が聞いて「へぼご飯」と声ができれば、蜂の巣を求めて廻るのがごく普通で、毎回の食事は食べることにしみじみと幸せを感じる時間と成っています。誕生日には好きなものを用意するほか、ちまきやおはぎ等季節料理も喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や、食形態があり、職員全員が把握し統一している。その都度の変化にも柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが流れとなっており、利用者様も把握している。ご自分でできない方は職員と共に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ定期的に誘導している利用者様もいる。排泄チェック表の活用。サービス計画の個別サービスに上がっている利用者様もいる。ゴミの削減にもなる。	介護計画書の中に排泄チェックも組み込み、職員が細目に手をかけることで不潔が解消され、オデキが治ったという例もあります。パッドが減った時は無論、増えたときは「なぜ、増えたのか」を家族に説明して、管理者からも「家族のお金で買ってるものだから…」と都度指導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。排泄チェック表の活用にて、排便の間隔があいた時は、水分摂取増や時には内服を使用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきが基本となっているが、ADLの低下に伴い、希望に沿えない時がある。のんびりゆっくりと入って頂けるようにしている。	3面から脚を入れることができるゆったり設計の湯船です。冬季はマイナス16℃となる寒冷地で、戸外においた給湯機の置き場所も悪かったこともあって、毎年冬には湯の管理に悩まされていましたが、昨年大工事をおこなったので、本年は楽しい入浴となることが予定されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の年齢や体調に合わせ、休息して頂いている。安眠できるよう居室の温度にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変わった時は、必ず申し送りがされ、内容によっては介護詳細記録に記入し、主治医と相談指導を受ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり楽しみや気分転換の仕方が違う。それぞれの関わりを大切に、穏やかに生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望というのは現状無理で出来てない。毎日の散歩は出来ている。ご家族様の協力のもと、喫茶店や温泉、道の駅、美容院などへ定期的に行かれる利用者様もいる。	日々の散歩は1対1～2で職員がピストン何度も行ったり来たりを繰り返しています。前回課題とした個別外出はADL低下と職員配置の厳しさもあって思うように進まず、達成できていません。その分「是非、お願いします」と家族に墓参、通院、外食などをお願いしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で預かっており、利用者様が自分で使う事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ電話の対応はしている。手紙については、面会に来て下さった知人へ、施設で撮影した写真を送るお手伝いをした事はある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには季節感を出す花や飾り付けをしている。室温や湿度もパネルを見て気を付けている。寒冷地なので冬の寒さには特に注意している。	千羽鶴や手鞠の折り紙、塗り絵など利用者の作品が壁を飾り、主婦集団ならではの清潔、整頓が行き届いています。針金のハンガーのリスクが高いことを知って、すべて入れ替えている例からも、事業所の高い意識が伝わります。	寒さから少しずつ扉があいていますが、トイレは開けずに済むようハロゲンヒーターなどの導入があることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の居場所はほぼ決まっているが、同じ趣味の方が集まったり、女性同志で会話する事もある。ソファで一人で過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地や安全面から、入所時にご家族様と相談している。使い慣れた物、大切な物、好みの物を持ち込んだり、テレビの持ち込みも自由である。但し危険と判断した物には持ち帰って頂く事もある。	使い慣れた鏡台を踏み台代わりにしてエスケープしてしまったり、足元がふらつくなどの理由から、家族と相談してベッド以外の物品を置かない部屋もあります。居室での排尿が頻回な人には布団をはじめとする配置を何度も替えて、本人が少しでも落ち着くよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全・安心・安楽を基に危険なく、なるべく自立した生活が送れる配慮はされている。車イスの方も届くドアノブの高さである。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396300010		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム設楽名倉の家(2号館)		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町東納庫字古松4番地		
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果市町村受理日	平成31年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2396300010-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年11月1日開設。2ユニット、定員18名。山間部に位置し、標高が高く四季折々の山や田園風景の綺麗な空気の良い所です。提携病院の往診が2週間ごと、医療連携の看護師による健康観察が1回/週あり、安心して生活して頂けるよう配慮をしています。近くには桜の名所や紅葉の名所があり、毎年ドライブに出掛けています。ご近所の方が野菜を持って来て下さったり、利用者様のご家族様が作った、新鮮な野菜を届けて下さったりと、季節を感じられる食事も楽しみの一つでもあります。また、ボランティアの方達の訪問もあり踊りや歌、大正琴などの楽しみもあります。職員は地元の方が多く、年齢も30代~70代と幅広く、家庭的な雰囲気です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間地域で職員確保が難しく、必然的に子育てを終えたパートタイマー職が頼りとなる存在として活躍している事業所です。「買い物でいいもの見つけたよ」とプライベートも利用者のことがいつも頭にあり、リビングには家庭にある何気ない振舞いが心地よく広がっています。時節料理が欠かさず提供され、「何食べたい?」「へぼご飯」となれば蜂の巣を求め、食べることに幸せを感じる時間が優しく過ぎてゆきます。誕生日に本人が好きなおはぎを手作りで届けたお嫁さんの日頃の苦勞をねぎらい、事業所がボードで皆に紹介したところ、涙ぐまれて「(気持ち)をわかってもらえて…」との言葉が零れたエピソードからも事業所の姿勢が滲みます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲示するとともに、常に実践に繋げている。朝礼でも確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や外出時に近隣の方との会話や、地域の方によるボランティア(歌、踊り、大正琴、草刈り)の支援協力など交流を図っている。施設側の理容店の方が定期的に散髪に来てくださり、その際に地元情報を得たり、会話を楽しむ様子がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方の入所が増え、面会を通して施設や認知症の方への理解が深まっている。地域柄一人暮らしの方も多く、将来的に心配となった時に施設の存在は有り難いとお言葉を頂く事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に行っている。施設での取り組みの様子、利用者様の様子の報告や課題について意見を頂きサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席や、町主催の研修会の案内を頂いたり、常に協力体制に取り組んでいる。先日の台風での停電では、担当者が施設迄出向いて下さり、今回の問題点について検討の約束を頂いた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の年間教育研修の中でも身体拘束について研修している。身体拘束について職員は理解と認識はしているが、利用者様が非常に不穏で外へ出ようとされる時は、安全の為玄関の施錠をする事もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の年間教育研修の中でも虐待防止について研修している。自己チェックシートの活用や、職員同士でも注意できる職場環境に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内教育の実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明を心掛けている。不安や疑問点を尋ね、納得頂けるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や、面会でのご家族との会話のなかで意見要望を聞き運営に反映したり、上に報告している。利用者様とは日常生活にてくみ取り要望に答えるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや、リーダーより職員の意見をまとめ上がってきた物は、検討し可能な限り運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の労働環境や希望を配慮した勤務形態をとっている。パートやアルバイトにも資格手当や達成手当など付くようになり、給与水準も上がってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力、必要に応じて本部・事業所内・外部への研修・教育に参加している。資格取得でのサポートもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の市町村や、町内での研修・勉強会に参加し情報交換している。参加者は管理者だけでなく、職員が勤務に支障がない程度で交代で参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時、契約時にご家族との会話からや、本人のフェースシートやアセスメントシートの情報により、生い立ち、生活歴、趣味などを知る事により安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで他では話せなかった困っている事、不安など、ご家族の思いを傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応はまず今の状態からすぐ必要なサービスの導入をし、早い段階でサービスの見直しをしたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの利用者様の得意とする事、できる事などを見つけ一緒にやっている。それぞれの役割が決まっている事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の様子や変化をお話している。今まで疎遠であったご家族が入所をきっかけに交流が始まり、集まったり外出できるまでとなったご家族もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院や歯医者など馴染みの所へ、ご家族様の協力のもと出掛けて行く方もいて、入所依頼継続している。近隣の方が面会に来所時は、顔見知りのかた数名の面会をされていられる事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の配置や日々の生活の中で、気の合う人同志や同じ趣味の方など、利用者様が関わり合いながら支え合えるようにしている。様子を見て席替えもしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。ご夫婦のみで生活されていた方で、奥様が他施設に移動され一人暮らしを続けているご主人へ、お二人の様子を尋ねる電話を定期的に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や本人との会話の中で、職員がニーズをくみ取り、カンファレンス等で検討し、可能な限り努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族よりお聞きした話や、利用者様本人との会話の中から、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの生活リズムを大切にしている。かなりの高齢の方から若い方まで、年齢に幅があるので、無理強いする事のないよう気を付けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングや、変化や入院、介護事故などが起きた時には、その都度介護サービスに反映し、介護計画の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護詳細記録への記入や、送りノートへの記入など情報の共有をしている。体調の変化、薬の変更追加時なども、詳細記録に記入し様子観察している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないよう、柔軟に対応している。ご家族様が遠方であったり、ご家族のいない方もいる。その時々ニーズに柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元ボランティアの方の受入れや、この地域独特の食べ物(五平餅)を時には購入し食べる事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については、入所時にご家族様と話し合い決めている。施設に往診に来て下さる施設医もいるが、入所前の主治医のままの方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に看護師が来所する。職員は気になる点を報告相談等している。その後、受診や治療へと繋がる事がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の関係者とは常に良好な関係が保てている。早期退院に向けて、密に連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にも説明させて頂いている。その時の状況により医師の指導や、ご家族の意向のもと、地域の他施設とも連携している。また、グループの中での協力体制ができています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが救急救命訓練の実施や、マニュアルも掲示してある。日々の介護の経験の中から、職員同士で指導伝達し、実践力も身につけてきた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練(通報・避難・消火等)にて身には付いてきている。地域との合同訓練は出来ていない。地区の区長とは協力体制のお願いはできている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修などにて心掛けてはいるが、時に気になる事もあり、職員間で注意できる職場となるよう努力している。トイレのドアや入浴時のカーテンなど注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中での読み取りや、ご家族様との会話の中で話した事をお聞きしたりする事もある。自己決定には心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まりはあるが、本人の意思を尊重している。ご自分のタイミングで生活されている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で季節に合った服装のお手伝いをしている。外出や病院受診の時などは、職員が服装を決める時もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査にて全員が食事が楽しみであるとアンケート結果が出ている。田舎ならではの季節感のある食事の提供や、季節の行事や誕生会など嗜好を凝らしている。お手伝いもできる方にはお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や、食形態があり、職員全員が把握し統一している。その都度の変化にも柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが流れとなっており、利用者様も把握している。ご自分でできない方は職員と共に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ定期的に誘導している利用者様もいる。排泄チェック表の活用。サービス計画の個別サービスに上がっている利用者様もいる。ゴミの削減にもなる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。排泄チェック表の活用にて、排便の間隔があいた時は、水分摂取増や時には内服を使用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきが基本となっているが、ADLの低下に伴い、希望に沿えない時がある。のんびりゆっくりと入って頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の年齢や体調に合わせ、休息して頂いている。安眠できるよう居室の温度にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変わった時は、必ず申し送りがされ、内容によっては介護詳細記録に記入し、主治医と相談指導を受ける。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり楽しみや気分転換の仕方が違う。それぞれの関わりを大切に、穏やかに生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望というのは現状無理で出来てない。毎日の散歩は出来ている。ご家族様の協力のもと、喫茶店や温泉、道の駅、美容院などへ定期的に行かれる利用者様もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で預かっており、利用者様が自分で使う事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ電話の対応はしている。手紙については、面会に来て下さった知人へ、施設で撮影した写真を送るお手伝いをした事はある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには季節感を出す花や飾り付けをしている。室温や湿度もパネルを見て気を付けている。寒冷地なので冬の寒さには特に注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の居場所はほぼ決まっているが、同じ趣味の方が集まったり、女性同志で会話する事もある。ソファで一人で過ごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地や安全面から、入所時にご家族様と相談している。使い慣れた物、大切な物、好みの物を持ち込んだり、テレビの持ち込みも自由である。但し危険と判断した物には持ち帰って頂く事もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全・安心・安楽を基に危険なく、なるべく自立した生活が送れる配慮はされている。車イスの方も届くドアノブの高さである。		